

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200330		
法人名	株式会社 メディカルケア		
事業所名	ケアホーム なかそね		
所在地	富山県高岡市中曽根2374		
自己評価作成日	令和6年8月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの建物は、木のぬくもりが感じられる古民家風である。利用者様にはいつまでも元気で過ごして頂きたいという思いから、手作りヨーグルトや認知症の改善に効果がある乳酸菌(マウスケア)の服用、体内の活性酸素を除去する水素吸入を毎日行っている。他の取り組みとして、足浴後のマッサージや化粧水保湿、アロマテラピー(加湿器での空間噴霧や肌に塗布しマッサージなど)を実施しており、利用者様が日々穏やかに心地よく過ごしていただけるよう寄り添うケアに重点を置いている。

看護師が数名在籍毎日勤務しており、利用者様の健康管理に細心の注意を払っている。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ジアイノ、オゾン発生器を24時間稼働させシラバスターを随時使用して感染予防の徹底を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、会社の理念の唱和を行い、接遇の目標を読み上げて日々のケアに反映されるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域の行事への参加は控えている。事業所の納涼祭は利用者と職員とで行った。地域の回覧板の受け渡しが始まり、今後自治会との交流を深めていく予定。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校6年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催していたが、コロナ禍のため一時中断していた。昨年度より再開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議についてはコロナ禍により一時中断し紙面上での報告とされていたが、2022年11月からは2ヶ月毎に開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの職員の方にも出席していただき、事業所の実情や取り組みについてお伝えしている。また、事故など問題があった場合にはすぐに市に報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠。毎週のカンファレンス時に身体拘束チェック表にて1週間のケアを振り返っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴、トイレ誘導、オムツ交換時に身体に異常がないか観察している。虐待についてホーム内研修や全体研修にて学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてはホーム内研修で学んだが職員の理解が浅い。実際のケースを提示するなど具体的に理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族等の不安や疑問を必ず聞き、納得して頂けるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が気軽に意見を出せるよう意見箱を設置しているが投書はなく活かされていない。家族様が来所された際には、意見や要望を気軽に述べてくださるような雰囲気作りを心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われている会議の際に、職員の意見や提案を代表に報告し指示やアドバイスを頂き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給あり。ロッカールームに休憩室を完備しており、リラックスできる場を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に全体研修やホーム内での研修を実施している。希望者には実務者研修や認知症実践者研修を受講する機会を与え、参加できるよう勤務調整している。介護の分野だけではなく人間力を高めるための研修も学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社系列の他の事業所と研修等を通して交流する機会を設け、意見交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する時点でその方のバックグラウンドを情報収集し職員間で共有している。利用者様が不安を抱かないように本人の気持ちの動きや思いに気を配り、またどのように過ごされているか、他利用者と馴染めているかなど留意し、安心して過ごしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から困っている事、不安な事、要望を必ず聞き、職員同士で情報共有し、家族との信頼関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等から困り事、不安な事、要望を聞き、まず必要としている支援を提供しつつ、必要に応じて訪問看護等の外部サービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る範囲の家事(洗濯物たたみ、テーブル拭きなど)を職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会を希望された場合は、コロナ禍の状況による会社の方針にあわせて、直接面会や窓越しやズームで面会をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については直接もしくは窓越しやズームで行っている。また、近隣への散歩やドライブ等、馴染みの場所へ出かけるなどしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を考慮し、利用者同士の関係が良好に保てるよう座席配置を考えるなど職員が気を配っている。利用者同士の関係に変化があった場合は、カンファレンス等で話し合いその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、家族に本人の様子を伺い、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりから一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め。意思疎通が困難な方には、表情や行動の変化を観察して対応するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から話を聞き、生活歴や生活環境の把握に努めている。新しく得た情報はカンファレンスで共有しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の身体の状況、生活リズムを把握し、申し送り時に引き継いでいる。また、情報伝達ノートを活用し職員間の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回のカンファレンスで、職員の意見やアイデアを聞き参考にし、現状に即した介護計画を立案するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分摂取量、排泄状況及び日々の様子や気づきをIPADに入力し情報共有している。また、必要に応じて24時間シートを活用しカンファレンス時に情報共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体内の活性酸素を取り除く水素吸入やアロマセラピーなどを取り入れ、利用者様の健康に留意しリラックスできるよう支援している。認知症に効果がある乳酸菌(マウスケア、金沢大学教授とのコラボ)を家族様に説明し、希望があれば購入して頂き、毎日服用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はホーム前にて小学生の下校時の見守り隊を行っていたがコロナ禍のため中止している。地域資源を活用して利用者を支援することはあまりできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による訪問診療を依頼しており、診察時には必ずホームの看護師が付き添い、日々の体調や生活状況等、診察に必要な情報を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化があればすぐにホームの看護師に伝え、必要であれば受診している。ホームの看護師と訪問看護師の連携を密に行い、適切な対応が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず介護サマリーを作成し提出している。入院中は、病状把握のため定期的に病院から情報を得て連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて家族に説明している。重症化した場合家族の意向を確認し、家族、主治医、訪問看護と話し合い、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにはAED、救急カートが設置されている。急変や事故発生時に備えての研修を定期的に行う必要があるが行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成し勉強会を実施したが職員に周知できたとは言えない。また、火災避難訓練や地震・水害想定での避難訓練を実施しているが、今後地域との協力体制を築くことができるように進める必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねないような関わり方について、職員間で話し合い実践するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の傍に寄り添い、何気ない会話を通して思いや希望を表出できるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人おひとりがその人らしく過ごしていただけるよう、今までの経験や大事にされてきたことを職員間で共有し、支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には、利用者様に着替える服を選んでいただくなどの対応をしている。月に1回訪問美容師が来所されヘアカットする機会があるため、利用者様にご希望を聞き対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回程度、お楽しみランチを企画し、利用者のリクエストを聞き要望に添うよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者より配達される食事で、栄養士が作成された献立で栄養バランスの取れた食事を提供している。できるだけ利用者様の好みに合わせて(温める、刻む等)提供し、食事や水分摂取が進むように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせ、介助や見守りにて口腔ケアをしている。歯ブラシや口腔コップは毎晩消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排泄パターンを掴み、適宜トイレ誘導している。リハビリパンツやパット等の排泄用具を検討しながら、できるだけトイレで気持ちよく排泄していただけるように関わっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向がある利用者様については、原因について検討し個別に対応している。毎日手作りヨーグルトを提供し、便通改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴していただいている。入浴のない日は足浴を行いマッサージも行っている。入浴や足浴の実施については、利用者様の希望に添い対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか安眠できない方には、気持ちをリラックスさせ穏やかに入眠できるようラベンダーオイル等をアロマディフューザーで焚き、できるだけ薬に頼らない支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報はいつでも確認できるよう定位置に保管している。薬は一包化されており、与薬の際には必ず名前、日付等を確認している。薬の処方内容が変更された場合看護師は、必要に応じて介護士と連携を図り、利用者様の状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の特技や趣味を活かし、個々取り組んで頂けるように関わっている。季節を感じる壁画作りや、納涼祭やクリスマス会などの行事も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は外食、ドライブ等によく出かけていた。コロナ禍によりその機会は減ってしまったが、今後はまた利用者様のご希望を聞き、外出する機会を増やしたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食の際に食べたい物を選んでもらったり、一緒に買い物に出かけたりしていたが、コロナ禍によりその機会はほぼなくなってしまった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかってきた時、本人や家族が希望されたら取り次いでいる。家族からの手紙は、自分で読める方にはお渡しし、読めない方には代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナウイルス感染予防のため、適宜に換気し、空気清浄機、オゾン発生器等を設置し常に稼働させている。玄関やホールには抗菌抗ウイルス効果のあるアロマオイルを焚いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビの前にソファがあり、談笑したりテレビを観たり居眠りしたりと思い思いに過ごしておられる。庭に面したテラスでは、ゆっくり日光浴をして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には畳が敷いてあり、使い慣れた家具や馴染みのものを使いやすいように配置し、本人が居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、車椅子の方が自力走行にてスムーズに移動できるよう段差がない。扉の取っ手は開閉しやすく握りやすいよう、大きなものがついている。トイレや自分の居室が分からなくなる方のために、トイレや居室の入口に貼り紙をしている。		